

## 特別区制度研究会の中間経過報告

自治の動向を見据えた基礎的な調査研究を行う特別区制度研究会は、平成 22 年 5 月に第 2 期の第 1 回目を全体会として開催し、その後、各分科会において、下記のテーマに沿って月 1～2 回程度活動してきた。途中、分科会によっては、講師を招き講演を依頼するなど工夫を加えながら、調査研究活動を行ってきた。

今回、特別区制度懇談会において中間報告を行い、その中で懇談会委員との意見交換の場を設け、得られた貴重な意見を今後の研究に生かし、最終報告書をまとめていくこととしている。

### ●第 1 分科会

テーマ：自治制度をめぐる国等の動向と特別区の課題  
(地域主権・地方分権・自治法改正等による特別区への影響や課題等)

○地方自治体を取り巻く環境の変化が進む時代背景の中で、地方分権改革の流れに着目し、その必要性と背景を探った。今後は、地方分権時代に求められる職員像の検証に向けて、職員意識調査を実施し、必要となる取り組み等を考察していく。

### ●第 2 分科会

テーマ：基礎自治体と広域自治体の関係のあり方  
(道州や府県をめぐる動向・議論、基礎自治体の視点による今後の方向性等)

○各種の文献・報道情報、ホームページ等を通じて、国、地方公共団体を取巻く現状について認識を深めながら、「基礎自治体」と「広域自治体」の関係の確認を行った。今後は、二つの自治体の関係および特別区と都の関係について、調査研究を行っていく。

### ●第 3 分科会

テーマ：基礎自治体間の対等・協力関係と連携  
(現行の各種の連合組織や自主的連携の実態・議論をもとにした連携・連合の意義と可能性等)

○法定の連携の仕組みや連携事例について共通認識を深めた。また、特別区と他の基礎的自治体双方が“win-win”の関係を築くには、特別区のスケールメリットを活かした連携策を開発することが肝要であることを確認した。今後は実例研究をさらに進め、連携及び連合の意義と可能性について考察し最終報告を行う。

### ●第 4 分科会

テーマ：基礎的自治体の規模・能力と自治  
(分権改革や合併などの検証をとおした基礎的自治体における自治のあり方等)

○東京における新たな自治運営を考えるうえで「官から民へ」の流れが必須となっている。また今後の基礎的自治体の自治のあり方は、各自治体が地域の実情に合わせて住民自治の充実を図るべく、住民とともに考え実行していくことが最も重要である。このような考えのもと、今後の大都市自治の創造について検討を深め、報告書にまとめていく。

### ■今後の予定

平成 23 年 12 月に報告書を取りまとめる予定である。